

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

福山原料化工場

(2) 事業所の所在地

〒721-0956 福山市箕沖町113番地

(3) 業種

8816 ごみ処分業

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25年度（2013）を基準年度とし、令和2年度（2020）から令和12年度（2030）までの10年間とする。

3 計画の基本的な方向

<基本理念>

JFEプラリソース株式会社は、プラスチック・リサイクル事業を通して、環境負荷の低減を実現し循環型社会の形成に貢献します。

顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を明確にし、理解し、一貫してそれを満たし、製品及びサービスの適合並びに顧客満足度を向上させる能力に影響を与え得るリスク及び機会を決定し、顧客満足向上の重視を維持した事業活動を行います。

品質マネジメントシステムならびに環境マネジメントシステムにのっとり、すべての従業員は、一丸となって品質環境マネジメントに取り組みます。

<基本方針>

- (1) 顧客満足度の向上、環境負荷の低減を両軸とした事業活動を行い、事業の発展とともに社会コストの低減をリサイクルにより果たすという目的のため、品質環境マネジメントシステムにのっとり、品質環境マニュアルを定め、遵守し事業を行います。
- (2) 品質環境マネジメントシステムは、当社のすべての組織、すべての活動、製品及びサービスに適用します。
- (3) コンビナート、エコタウン、次世代エネルギー・パークの構成メンバーとして環境汚染を予防し、事業活動が与える環境負荷の低減、事業により成される環境負荷の低減を維持・向上・継続します。
- (4) 関連する法令、その他の要求事項を遵守します。
- (5) 品質マネジメントシステムの継続的改善、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的改善を推進します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和3（2021）年度
二酸化炭素	9,378	8,231

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和3（2021）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	平成25（2013）年度	令和3（2021）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス （ HFC PFC SF6 NF3 ）		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25(2013)年度)		削減目標		目標年度 (令和12(2030)年度)	
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)		
エネルギー起源CO ₂					0	
非エネルギー起源CO ₂					0	
メタン					0	
一酸化二窒素					0	
その他 温室効果ガス					0	
温室効果ガス 実排出量総計					0	
温室効果ガス みなし排出量		-			0	
目標設定の考え方						

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

処理量(t)

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成25(2013)年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和12(2030)年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	9,378	29,872	0.31	16.1	8,909	33,800	0.26
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算k l)	-	-	0.11	5.0	-	-	0.10
目標設定の考え方	CO ₂ 原単位を「0.5%/年」削減						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	燃料使用量の削減	燃料使用量を原単位で 0.5%/年削減	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥機燃料の都市ガス使用量削減を目的に以下の項目を継続して実施。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 温度設定のキメ細かな管理。 2) 高炉手法でのバーナーレス操業の計画的な実施。 車両燃料の経由使用量削減を目的に以下を継続して実施。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運搬車両・工場内重機のアイドリングストップの徹底。 2) 高炉製品運搬車両の積載量アップによる運搬効率 (t/L) 向上。
2	電気使用量の削減	燃料使用量を原単位で 0.5%/年削減	<ul style="list-style-type: none"> 冷暖房温度の適正管理を継続して実施。 設備の省電力化として以下を継続して実施。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一部機器の停止。 2) 操業一斉停止日を設定。 3) 製品製造設備への保温材敷設によるヒータ電力使用量の削減。 4) 高能率操業化による電力原単位削減。
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	周辺地域への貢献		<ul style="list-style-type: none"> 地域イベント等への積極的参画
2	品質環境 マネジメントシステム	毎年度エネルギー 目標値を設定	<ul style="list-style-type: none"> 品質・環境マネジメントシステムの導入 ISO9001・14001取得 グリーン購入の推進

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

再現できません(画像)

(2) 実施状況の点検・評価

省エネに関するチェックリストを作成し日常での点検を行う。
また毎月、前月度の実績を把握・評価し、継続的な省エネとCO2削減の向上を図る。
毎年度の実績・取組状況及び環境教育を計画実施し従業員全員に周知徹底させ、
従業員全員で省エネとCO2削減に取り組む。

(3) 計画書等の公表

- ①事務所に備え付けて閲覧する。
- ②毎年度発行するCSR報告書(環境報告書)を当社ホームページ上で公開し、進捗状況を公開する。